

1 令和8年度 当初予算案について

裏面参照

(1) 当初予算の概要 「だれもが自分らしく暮らせる『未来共創都市』実現予算」

- ・ 令和8年度は、掛川市の新たな将来像の実現に向け、第3次総合計画が始動する重要な年度です。
- ・ 当初予算では、これまで以上にデータに基づく効果検証と事業立案を徹底し、「選択と集中」による予算編成とします。さらに、物価高騰対策にも力を入れ、全市民を対象とした紙商品券の配布（食料品等物価高騰対策商品券事業）や学校等の給食費の一部減免（給食負担軽減対策事業）など、市民生活を圧迫する物価高騰の負担緩和に取り組みます。

(2) 会計別予算額 (案)

①一般会計	548億9,000万円	(前年度比 9.6%減)
②特別会計	255億5,081万円	(前年度比 3.6%増)
③企業会計	98億6,037万円	(前年度比 0.2%増)
合計	903億 118万円	(前年度比 5.2%減)

2 「空き家活用モデル事業」採択事業の紹介について①

(1) くらみ里山留学推進空き家リノベーション事業

- ・ 倉真地区では、地区まちづくり協議会内に「くらみ里山留学研究部」を設置し、令和5年から親子留学を受け入れており、現在2家庭が倉真で暮らしています。
- ・ 新たに2件の空き家がリノベーションされて里山留学用の住宅に生まれ変わり、移住家族を迎える準備が整いました。



(2) 愛宕下美術館の保存再生と隣接空き家の民泊施設化計画

- ・ 4月には横須賀地区で長らく閉館していた愛宕下美術館が、滞在型アート作品制作、市民ギャラリー、個展開催などの場に生まれ変わります。
- ・ 隣接する空き家は、「泊まれる美術館」をコンセプトに、和風情緒を生かした民泊施設にリノベーションされ、新しい人の流れや地域経済の活性化に寄与することが期待されます。

3 「AI オンデマンド交通実証実験」結果と今後の展望について

(1) 実証実験の概要

- AI オンデマンド交通は、予約に応じてAIが最適なルートを導き出し運行を行う新しい交通サービスです。
- ①運行区域：桜木地区内全域、桜木地区外にある主要施設
 - ②運行期間：令和7年10月1日～令和8年1月31日 午前7時30分～午後7時（土日祝日含む）

(2) 結果から見えた課題と今後の展望

- 【結果】** ①乗車人数 2,337人（1日平均20人、平日平均24人）、②乗車後の評価 平均4.1/5
- 【課題】** ①長距離移動に対する不適格性、②車両ごとに運行エリアを限定することの非効率性
- 課題を踏まえ、市内を①AI オンデマンド交通導入検討エリア、②路線バス+AI オンデマンド交通導入併用検討エリア、③デマンド型乗合タクシー検討エリアなど5つのエリアに分け、今後AI オンデマンド交通の導入に向けた検討を進めていきます。

(3) 令和8年度の取り組み

- 令和8年度当初予算(案)計上額：5,420万円（新モビリティサービス導入費）
- ①桜木線エリアの実装に向けた検討費用（システム利用、車両運行委託、車両リースなど）
 - ②運行エリア拡大に向けた検討費用（運行事業者・地元との協議、運行体制・システム構築など）

4 その他

(1) 市長定例記者会見の内容について ～市ホームページにてご確認ください～

右の二次元コードから「市長定例記者会見」の内容をご確認ください。

(2) 風水害・地震・津波対策寄附金状況 ～ご協力ありがとうございます～

164件 56,389,251円（3月2日現在まで）※前月まで 55,843,284円

(3) 松ヶ岡プロジェクト寄附金状況 ～ご協力ありがとうございます～

595件 70,715,489円（2月28日現在まで）※前月まで 70,509,086円

(4) ゼロ・ウェイストに向けて、ごみ減量進行中 ～ごみ分別へのご協力ありがとうございます～

令和8年1月のごみ搬入量 1,818トン ※前年同月比 2.0%減（37トン減）

右上の二次元コードからごみ減量の傾向についてご確認ください。



令和8年度 当初予算案の概要

だれもが自分らしく暮らせる「未来共創都市」実現予算

令和8年度は、掛川市の新たな将来像の実現に向けて、第3次総合計画が始動する重要な年度です。掛川市は、市民、各種団体、企業など様々な主体の皆様とともに、新たな一歩を踏み出します。

これまで進めてきた子育て支援、定住促進、企業誘致などの施策が着実に成果を上げ、市税収入も堅調に増加しています。一方で、近年の2～3%台のインフレ率に伴い、資材・建設費・エネルギー価格・人件費の高騰や、金利上昇による利払い負担の増加が財政運営に大きな影響を与えています。

さらに、新廃棄物処理施設や学校再編などの大型事業が控えており、今後数年間は厳しい財政運営が予想されます。

こうした状況を踏まえ、令和8年度予算では、これまで以上にデータに基づく効果検証と事業立案を徹底し、「選択と集中」による予算編成とします。令和8年度を「共創元年」と位置づけ、テクノロジーと限られた財源を最大限に活用しながら、ちがいをチカラに変え、新しい価値を創り出すことで、だれもが自分らしく暮らせる未来共創都市の実現を目指します。

1 予算の規模

一般会計 548億 9,000万円（前年度対比 9.6%減）

新年度予算の編成にあたり、掛川市の新たな将来像の実現に向けて、第3次総合計画を始動する予算編成とし、限られた財源を最大限活用して、市民サービスへの影響を最小限に抑えながら、優先度の高い事業を厳選して予算配分を行いました。強い農業づくり交付金事業や海岸防災林強化事業等の減により前年度から減少しましたが、過去3番目の予算規模となりました。

（単位：千円・%）

区分	令和8年度	令和7年度	増減	伸び率
一般会計	54,890,000	60,720,000	△ 5,830,000	△ 9.6
特別会計	25,550,805	24,668,157	882,648	3.6
企業会計	9,860,370	9,835,817	24,553	0.2
合計	90,301,175	95,223,974	△ 4,922,799	△ 5.2

～令和8年度の主要事業～

1 食料品等物価高騰対策商品券事業	633,570千円
2 A I オンデマンド交通事業	54,192千円
3 海岸防災林整備事業	462,732千円
4 (仮称)サンサンファーム復活事業	67,277千円
5 空き家活用事業、空き家対策事業	48,965千円
6 掛川茶高付加価値化促進事業等	72,500千円
7 部活動地域展開推進事業	100,743千円
8 学校体育施設等電子予約システム導入事業	20,319千円
9 D E I 推進事業等	4,228千円
10 D X 人材育成事業	7,500千円